

## EL1-02

## 京セラ鹿児島国分工場の労働安全衛生活動の取り組み

清水 涼

京セラ株式会社 鹿児島国分工場 環境安全部 安全防災課 安全衛生係

## 1. はじめに

京セラは、1959年に京都の小さな町工場から出発し、現在では、グループ従業員数75,000名を超える企業へと発展した。中でも、鹿児島国分工場は京セラグループの最大拠点であり、敷地面積約39万㎡、従業員数は5,000名に達しようとしている。昨今では、世間からの企業に対する期待が高くなっているように、京セラとしても、地球に優しく、安全で働きやすい職場形成が課題となっている。ここでは、京セラ鹿児島国分工場の安全衛生活動について、御紹介させて頂きたいと思う。



写真1. 事務所内の感染防止シート

## 2. コロナウイルス対策について (写真1、写真2)

周知の通り、世界で猛威を振るっているコロナウイルスの感染防止対策は、今や国の施策に頼るだけでなく、企業においても率先した施策が急務となっている。国分工場でも、出勤前の検温、入退門ゲートへのサーモグラフィカメラの導入、出退勤時や就業中のマスク着用、各エリアでの手指消毒用アルコールの確保、事務所内の感染防止シート設置、食堂のつい立て設置、喫煙所の喫煙ポイント設置によるソーシャルディスタンスの確保等の対策を実施している。これらの対策の成果もあり、国分工場では、感染者を発生させていないが、今後においても、引き続き感染者が発生しないよう努めると共に、万が一、発生した際の感染拡大防止のため、対応を確実にできる様に準備が必要である。



写真2. 食堂内のつい立て

## 3. デジタルサイネージ (Digital Signage = 電子掲示板) を活用した啓発活動について (写真3)

国分工場では、全従業員が労働安全衛生に関する情報を気軽に目に見えるように、工場の入退門ゲートにデジタルサイネージを導入した。デジタルサイネージに掲載する内容としては、先に述べたコロナウイルスに関することや、健康診断の情報、熱中症予防、転倒災害に対する注意喚起等があり、より印象に残しやすくするため、文字を少なくし、なるべく絵を用いるように工夫している。デジタルサイネージの導入は、従業員の労働安全衛生に対する意識向上に役立っていると感じる。



写真3. デジタルサイネージ

## 4. VR (Virtual Reality = 仮想現実) 機器での危険体感教育について (写真4)

近年、諸企業でもVR機器を用いた教育を実施していることを耳にするが、国分工場も2020年1月にVR機器を導入し、危険体感教育を実施している。現在までに、新入社員やプレス等の危険な機械を取り扱っている社員等、823名に対して教育を実施した(7月31日迄の実績)。教育後にはアンケートを記入してもらっており、回答を見ると本教育が好評であることがわかった。今後も継続してVR機器による教育を実施し、社員の危機感受性を高めていきたい。



写真4. VR危険体感教育

## 5. まとめ

今回、我々が行っている活動について御紹介させて頂いたが、更なる改善の余地が残っていることと思う。この場をお借りして、私の発表を御視聴頂いた労働安全衛生に係る皆様の御意見を頂戴できれば幸いです。

## ■略歴

2018年 産業医科大学 産業保健学部 環境マネジメント学科 卒業  
2018年 京セラ株式会社 鹿児島国分工場 環境安全部 安全防災課 安全衛生係